

あとから来る者のために
坂村 真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分ができる
なにかをしてゆくののだ

U-net 通信

発行: 認定NPO法人 地球環境共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 http://www.unet.or.jp 編集人: 大山正治 / 発行人: 比嘉照夫

EM活用で霞ヶ浦・北浦の環境浄化や 安心安全な農作物で成果を上げる茨城県

取材/大山

茨城県は北海道に次ぎ全国2位の農業県。霞ヶ浦や北浦といった大きな湖沼に恵まれ水利に事欠かないことも大きな要因だ。首都圏に近いことで、野菜・果物の生産出荷額が多い。とりわけ鉾田市、行方市での農産物は東京都の台所として大きな役割を担っている。

しかし、農業水利のもとである霞ヶ浦や北浦は近年、水質の悪化で環境保全が危惧されている。これに対し、霞ヶ浦や北浦周辺地域の心ある人々が立ち上がり「霞ヶ浦をきれいにする会(鈴木せつ子会長)」が設立され、EMを用い環境浄化活動を進めている。今号ではU-ネット茨城地区顧問でもある石岡市の鈴木せつ子さんの案内で周辺地域のEM活動をご紹介します。



EM整流技術指導講習中の北浦みつば連合出荷組合の役員他の皆さん



茨城県のシンボル筑波山と霞ヶ浦



石岡緑の会のEM団子作り

霞ヶ浦に流れ込む支流から始めた水質浄化活動

霞ヶ浦をきれいにする会
霞ヶ浦をきれいにする会は石岡緑の会、NPO緑の会、よもぎ会、西台虹の友、EMネット茨城等により平成18年に発足した。それぞれの団体が霞ヶ浦につながる恋瀬川、上谷原池、高浜舟溜まり、東の辻池、視覚障がい者施設・光風荘の皆さん自らが作ったEMダンゴをボランティアと共に投入している柏原池、菱木川、鉾田川、巴川、大谷川、仲丸池にEMダンゴや活性液を投入し水質浄化を図っている。

恋瀬川の下流に霞ヶ浦での漁に使う小舟が集う高浜舟溜まりがあり、そこに定期的にEM活性液が投入されている。投入後、エビが大量に発生してきたと言う。

石岡市にある東の辻池は、以前豊かな農業用水として利用されていたが都市化で生活雑排水やゴミの不法投棄が増え、人が近寄れないほど荒れて悪臭が漂う池と

なってしまった。これではいけないと立ち上がったのが地元の東の辻二部町内会(佐藤信夫代表)が石岡緑の会やNPO緑の会の協力を得て、EMによる環境改善活動を行った。結果として、池及び周辺の環境はすっかり改善され四季折々にきれいな花が咲く公園となり、周辺に社会福祉施設などが建ち並ぶようになってきた。

石岡市仲郷地区の旧豚舎で、石岡緑の会の皆さんは8月中旬の酷暑の中、噴き出る汗をものともせずEMダンゴを作っていた。しかも皆さん良い笑顔で楽しそうに作業していた。見返りを求めない社会貢献活動とEMのおかげと思えた。



NPO緑の会メンバーによる東の辻池の浄化活動

EM技術と「EMそだち」は生命線

北浦みつば連合出荷組合
行方市でEMを使用して野菜を栽培している北浦みつば連合出荷組合(代表 前田恵助氏)は組合員180名で運営している。平成5年にEM技術を導入しているので、今年で25年になる。

EM活性液、EMボカシ、EM有機ペレット肥料、EM3S、アミノアリン等を使用し、大葉、チンゲンサイ、エンツアイ、ねぎ、エシャレット、葉生姜、豆類、いも類、小ネギ等20数品目を「EMそだち」という名で京浜市場を中心に出荷している。

「EMそだち」という名は、平成13年に市場側と協議の上決定し、比嘉照夫先生の指導のもと、平成16年に特許庁へ商標出願し、翌平成17年に登録商標となった。なお、その後も比嘉先生には数回、当地にて特別講演会等で指導をいただいている。

EM技術及び「EMそだち」は当組合の生命線。将来を見据えて最新の「EM整流技術」も取り組み始めている。今年3月、沖縄で比嘉先生からEM整流ブロック(EM、炭、塩をコンクリートで固めたもの)の作り方を教えていただき、現在のEM整流システムと併用し、その効果を検証中だ。



北浦みつば連合出荷組合代表の前田恵助氏



EM整流され栽培中の「EMそだち」チンゲン菜

共生・持続可能な循環型社会の実現を目指す

銚田まちおこし研究所
銚田市は農業粗生産額が全国2位である。ここで養豚

業を中心に生産加工販売「銚田ハム」など6次産業化を成功させている方波見牧場の代表である方波見勝久氏は一般財団法人銚田まちおこし研究所理事長も務めている。

方波見氏のEMとの出会いは、健康に農作業ができる農法の体得を目的に平成2年に沖縄の比嘉照夫先生に教えを請いに行ったことによる。以来、比嘉先生を講師に呼び銚田市で講演会を開催しEM農法の普及を図っている。

化学肥料・農薬・除草剤を使わずにEM発酵豚尿を使用し、メダカ等と共存共栄する生態系にやさしい水稻栽培を実施している。また、食品残渣を麹菌による液体発酵飼料を製造し養豚の飼料として給与している。これによる豚の健康増進や飼料効率アップはもとより、副産物である発酵堆肥は良質なので、安心安全で美味しい農作物の生産につながっている。

銚田市に接する北浦は外来魚が増殖して生態系が乱れている。現在、山砂を客土したところに捕獲した外来魚をEMボカシで発酵させた肥料だけで栽培する適応実験をしていて、良い成果も現れている。

豚尿や外来魚等の廃棄物を良質な堆肥や肥料にすることにより共生・持続可能な循環型社会の実現を目指している。

これらの事例は9月29日(土)開催の「善循環の輪 茨城の集いin石岡」で発表される。



銚田まちおこし研究所理事長の方波見勝久氏



砂地にEM発酵肥料を使って実験栽培されるトマトとキュウリ

第9回「海の日」全国一斉EM団子EM活性液投入

～ 集計途中結果報告 ～

取材/大畑

全国の団体・個人が多数参加して行われた全国一斉EM投入。U-ネット事務局に寄せられている報告書の途中集計結果をご報告する。今年の海の日イベントは比嘉照夫教授が名古屋市白鳥公園での堀川浄化大作戦に出席し、また三重県四日市港にて、多くの参加した人たちとともに楽しく団子投げイベントを行った。最終取りまとめ結果は次号に掲載する予定です。引き続き集計へのご協力をお願いします。

	団体・個人数	参加人数	EM団子(個)	EM活性液(L)
本年8月30日現在	289	9,075	153,552	334,173



EM 整流技術が 平成 30 年 7 月豪雨の災害から農地を守った

取材／長谷部

10月20日愛媛県で開催予定の善循環の輪の集いの事前視察のため、U- ネット愛媛県理事・野本千壽子さんを訪ねた。「EMの不思議な世界」をテーマに鳥獣対策、EMと塩だけの不耕起栽培による奇蹟のいちご農園、EMを活用した環境にやさしいクリーニング店、農業と福祉のコラボレーションによるEM自然農法による社会化活動を取材した。

取材した日は、たまたまこの夏衝撃的な豪雨（平成30年7月豪雨）が発生した後で、取材前に活動メンバーの農地も例外なく災害に遭っていると聞いていた。事情は承知の上で現地視察のため野本理事と一緒に現地へ出向いた結果、みかん畑も昨年台風の水害に遭った家庭菜園の農地も、EM整流技術により災害を免れている奇蹟の光景を目の当たりにした。

その様子は、災害の遭った土地は見るも無残な姿となっている反面、EM整流ロープ手前でその衝撃を緩和し農地が守れていた。また、昨年水害からEM整流で守られた家庭菜園においても、完全に川の水が氾濫し水没していたにも関わらず、EM整流している畑には川砂が一切無く、また、毎秒100トンの水圧でマンホールの蓋が流れ届くくらいの洪水にも関わらず、サトイモの葉っぱは傷一つない状態だった。過去2回の水害をもって比嘉セオリーを実現した農地であることが証明された。

今回、このタイミングで視察に行かせてもらったことに不思議な縁を感じつつ、毎年のように異常気象をうたっている現代社会におけるEM技術、比嘉セオリーの実現化が、これからの社会において必要不可欠なことと改めて学んだ。



冠水後の整流農地と非整流農地の違い

EM クリーニングで真の健康生活と環境共生

愛媛県にはEMを活用したクリーニング店がある。店名は「クリーニング ジャブジャブ」で代表の大西久樹氏曰く、「EM石鹼を使うことで排水がきれいな状態を保ち、また、廃油においても臭さのない職場となっている。EM石鹼でクリーニングすることで繊維の成分はそのまま保ち、汚れ油のみ溶かして洗濯できることで人体にも衣類にも優しい仕上がりとなり、アトピー性皮膚炎の方など全国からわざわざ当クリーニング店を探されて、遠方でもクリーニングの依頼を頂いている。」とのこと。従来のクリーニングは合成界面活性剤や柔軟剤などで排水溝がドロドロしており、また、化学性の刺激臭などクリーニング店としても作業上の悩みを、EM洗剤を使うことで快適な作業場となっている。そして、安心安全なクリーニングが健康生活につながっていることから、私たちの生活におけるありとあらゆる場面においてEMを活用していくことが、真の健康生活へつながっていくことを教えられた。これからのクリーニング業界をリードする安心安全なクリーニング店として乞うご期待。



「クリーニング ジャブジャブ」
代表の大西久樹氏



使用されているEM石鹼



EMできれいになっている
排水溝

EMと社会を結ぶ社会化活動こそ理想世界を実現していく

障害者施設アルムの里では、利用者さんと職員の協働で、EM技術を用いた自然農法を実践し、無農薬の野菜を栽培したり食べたりして、楽しめる仕組みを作っている。作物の生長に対する喜びを共感し、健康な食事を頂くことができるこの取り組みは、幸福な人生を築く基盤として重要なこと。社会福祉とEM自然農法のコラボレーションが、生きとし生けるものすべてに幸せを届けてくれているように感じた。

10月20日愛媛県で開催予定の善循環の輪の集いでは、更に多くの事例発表と参加者の皆さんに楽しんでもらえる企画をたくさん準備しているので、ぜひご来場を。



EMによる地域活性化に貢献する EMショップ コモンズ

～全てのEMによる重力波メカニズムは「愛」に繋がる～

取材/杉山

人々に暮らしや自然の生態系に著しい影響を及ぼした東日本大震災から7年。最も多くの尊い人命が奪われた宮城県では、海岸線に新たな防潮堤建設工事が続いているが、完成したのは約3割(宮城県HP)で、一日も早い総延長241kmの完成が待たれている。今回は仙台市で終始一貫したEMによる復興活動をするU-ネット宮城県理事・鈴木徹氏やスタッフの方々に現況を伺った。尚、復興の詳細は「みやぎ『善循環の輪』の集い in セケ浜」で発表される。

星のり店が掴んだ皇室献上海苔の栄冠

EMによる海苔養殖は約30年の歴史があるが、震災で全ての海苔養殖機材は流し失し、一からの出直しとなった。海苔養殖の成否は海苔が付着成長する「網」の管理にあると店主の星博さんは言う。以前は有機弱酸で網を洗い不純物を取除いていたが、星さんはEMを併用した自然に優しい独自の洗浄方法を考案実践した結果、ツヤがあり黒々としていて、しかもほんのりと甘さのある海苔養殖に成功した。

EM海苔は一般海苔に比べαカロテンやβカロテンの含有量が多く、その抗酸化作用による効果で、海苔ばかりか人の健康にも良いとされ注目を集めている。

EM海苔の収穫は例年11月頃からだだが、今年も豊作間違いなくと言う。始終笑顔で話す星さん。漁場でも海苔に笑顔で語りかけながら海苔の成長を願い、故郷の海・セケ浜に感謝する愚直なまでの姿勢があったればこそその皇室献上海苔の栄冠であった。



星のり店の星博さんと奥様

周囲を凌駕するEM復興田んぼ

EM復興田んぼは仙台市宮城野区新浜にあり、東日本大震災から7年後の平成30年に完成した。長い間放置された水田が整備され、自然と人の営みが復活した瞬間でもあった。海岸線と工事中の防潮堤の間に位置する約8700平方メートルには、復興田んぼと水辺と砂地のビオトープが広がる。

このEM復興田んぼを管理運営する市民団体カントリーパーク新浜(澤口義男代表)は、環境に優しいEMによる自然農法を取入れ、一切の農薬や化学肥料を使わない米作りを実践。新鮮な空気、豊富な水が重力波を生み、8種類の古代米にエネルギーを



復興田んぼとビオトープを背にカントリーパーク新浜の澤口代表(左から2番目)とスタッフ

与え続けた結果は一目瞭然。周囲の田んぼを凌駕するほどに稲穂が垂れる様は、市民団体カントリーパーク新浜の揺るぎない米作りの姿と重なり感慨深いものがあった。

同団体はこれからも機械を使わないで稲を手で植える田植えや、ビオトープでの子ども自然観察会を開催し、市民に喜ばれる新浜の復興まちづくりに取組むそうだ。

癒しの空間「ラベンダーヒルズ」

復興用土砂採掘跡地は東松島市大塩にあり、三方を崖に囲まれた約1ヘクタールの地。劣悪だった硬い粘土質土壌は、堆肥と共に大量のEM活性液を散布する事で今では立派に蘇り、ラベンダー園とハーブ園に生まれ変わり多くの方に愛され始めた。



ラベンダー園、ハーブ園の大家田律子さん(右)

この地を管理運営するA Lavender.com(株)の大家田律子さん(副社長)は、EM歴20年を超え、EMの良さや使い方を熟知したベテラン。そんな大家田さんのこだわりラベンダーは、香りや有用性に秀でたイングリッシュラベンダー。EM栽培によって得られた高品質のラベンダーからの精油を行い、多種多様な製品を世に送り出している。一度、同社のホームページ(<https://www.a-lavender-com.info/>)を訪れてみては如何。

EMショップ コモンズ

平成27年7月に「食と医と農」をテーマに、EM情報の発信基地として仙台市宮城野区岩切にオープン。EMの輪を広げることを主目的に鈴木徹氏が初代店長を務め、EMを知ってもらう為EMに関係する商品は全て揃えてあると言う。また、健康グッズには店長独自の慧眼が光る。同社ホームページは<http://www.emcommons.com/>。



EMショップ コモンズの鈴木店長(右)とスタッフの堀越さん(左)